

世界のニシハランチュ大会

第1回 西原における海外移民

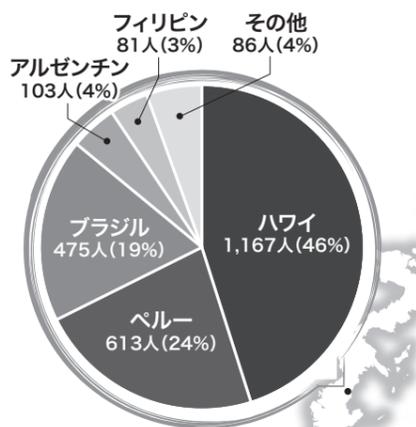
世界のニシハランチュ大会関連コラム(全4回)



西原における海外移民の歴史は、1899年(明治32年)、沖縄県から最初の移民としてハワイへ渡った26名の中に宇屋屋出身の呉屋次良が含まれていたのが始まりです。その後、渡航先は、ペルー、ブラジル、アルゼンチンなど11の国や地域に及びます。

西原村は、首里・那覇にも近かったことから交通の便もよく、移民等に関する情報伝達の点でも他地域よりも早く伝わったと考えられます。そのため、1935年(昭和10年)には、西原村人口10、427人に対し、海外移民・殖民・日本本土移住者は3、470人にものぼり、率に換算すると33%(沖縄県の全市町村中第2位)という数値を示します。つまり、当時、西原村の人口3人に1人は海外や県外に出ていることになり、県の平均が15%前後であったのと比較すると、約2倍にも相当し、県内有数の移民母村であったということがいえるでしょう。

そして、多くの移住先駆者たちが大きな夢を抱いて海を渡り、苦難の



西原村における渡航国(地域)別海外旅券交付数(1899~1941年)

時代を乗り越え、西原町人の海外での発展の基礎を築きました。第2次世界大戦時は、移住地で敵国民扱いされ、捕虜収容所送りや資産凍結といった辛い経験を強いられましたが、それでも苦難に耐え、戦後は救済物資を送るなど沖縄の戦後復興に多大な尽力をされてきました。そして、現在、2世、3世、4世の時代を迎え、西原出身者は各国の様々な分野で益々活躍しています。

今回は具体的にハワイ移民について紹介します。



文化財コラム

第3回 知らないことを知りたい?

「内間御鎖の御鎖って何ですか?」それは尚田王誕生六〇〇年記念事業・新作組踊「内間御鎖金丸」上演直後の電話による問合せ。連日の記念事業では、尚田王に関する講座やシンポジウム、展示会などを展開してきた文化財係にとって、足をすくわれる質問でした。

尚田王・金丸が王位に就く前の役職が「御物城御鎖之側」。領地が西原の内間帯であったため、金丸は内間御鎖とも呼ばれたとが。講座の講師をつとめられた歴史研究者は「御物城御鎖之側は海外貿易で得た品々を収めた御物城を管理する職」と説明され、その時は「へえー、そう」と何の疑問もなく納得していました。

「なぜ御鎖というのでしょうか?」あらためて研究者のおひとりに伺うと「御鎖の側」とは元来「王府の官有物を扱う職」のことで、語源は「はつきりと断定できませんが、官庫に鎖を掛けて守るといった意味合いがあるように思います」との見解をいただきました。

さらに「首里城内の太台所と大美

御殿蔵にも「御鎖之側」という役職があり、これらも食材や物品をストックしておく役所です」というおまけ解説まで。

それならば、「御鎖之側」をさらに調べてみると「中頭御鎖之側」「百次御鎖之側」という役職名を発見! 「百次って、なに?」

さあ、みなさんの探究心にも火がつかましたか。それとも「へえー」という感じでしょうか。

一本の電話を機に「なぜ、なに、どうして」を連発する幼児の質問期のように「知らないことを知りたい」という気持ち、今でもあるかしら...と自問する日々を過ごしています。



那覇軍港内に浮かぶ御物城

お問い合わせ

教育部生涯学習課 文化財係 九四四・四九九八

まちの話

なぎなたで大活躍

沖繩県小学生・中学生なぎなた大会

【個人試合】

〔小学校3年生の部〕

2位:宮平奈沙(西原小3年)、

3位:金城胡晴(同小3年)

〔小学校4年生の部〕

1位:瀬長拓夢(同小4年)、

2位:宮城心音(同小6年)

〔演技競技〕

〔小学校1・2年生の部〕

2位:仲吉らうら(同小2年)

〔小学校3・4年生の部〕

2位:宮平奈沙・瀬長拓夢、

3位:永吉優愛(西原東小4年)。

金城胡晴

〔小学校5・6年の部〕

3位:砂川凛(琉大付属小5年)。

金城優(西原南小6年)

〔団体試合〕(小学生の部)

2位:西原なぎなたクラブBチーム

砂川凛・宮平奈沙和(西原小5年)・永吉優愛



西原なぎなたクラブのみなさま

コミュニティ 助成決定



(二財)自治総合センターが行う宝くじ普及広報事業の「平成28年度コミュニティ助成事業」の助成団体に坂田高層住宅自治会(宮城良三会長、写真右から2番目)が決定し、通知式が4月18日に西原町役場で行われ、上間明町長から決定通知書が渡されました。自治会では、敬老会や学事奨励会などの地域行事の円滑な運営のため、関連設備(テーブル、椅子、テント、倉庫等)を整備し、会員の親睦と良好な地域社会の維持及び形成に資することを図っていきます。

まちの話

熊本県での活動を報告

熊本地震の被災地で支援活動を行った、西原町の職員2名が上間明町長に報告を行いました。川田真実さん(写真中央)は5月19日から熊本県宇土市で罹災証明書発行業務を、玉城順一郎さん(写真左)は5月22日から熊本県宇城市で避難所運営業務に携わりました。

川田さんは「悩みや今後の生活の相談を受けることもあり、寄り添い話を聞くことが必要だと感じました」と述べました。玉城さんは「ストレスを抱えている人が多くいました。衛生面を良くするため、自主的に清掃に取り組みました」と報告しました。



報告のようす

女性防火クラブ 東部消防組合女性防火クラブ西原支部(来間紀子支部長)が上間町長を表敬訪問し、防火クラブの活動の周知と人数増加の協力依頼を行いました。防火クラブは東部消防本部と連携し、定期的に救急法訓練や消火訓練、火災報知機の設置や防火ピール活動などを行っています。来間会長は「災害が起こった時に備え、日頃の訓練が大事です。また、災害時に対応できる人員を増やし、呼びかけをお願いします」と述べました。



火災報知器設置のようす

女性防火クラブのみなさま